

idea

NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター アイデア

2013

12月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | いちのせき市民活動センター活動紹介
- 3 | 団体紹介～いわいの里ガイドの会～(一関)
- 4 | 地域紹介～松原自治会～(大東)
- 5 | 企業紹介～株式会社 マーナーコスメチックス～(藤沢)
- 6 | 歩が行く～永井地区郷土芸能伝承保存会～(花泉)

いちのせき市民活動センター

活動紹介



- ①市民活動相談支援
- ②情報発信・収集、啓発支援
- ③地域への参画支援
- ④話し合い支援
- ⑤他事業との連携
- ⑥地域協働体への組織づくり支援

いちのせき市民活動センターが、行っている活動の紹介をいたします。

みちのくワークショップフォーラム 2013

			①ワールドカフェ 講師：小玉順子さん
			②ローカルファシリテーター 講師：吉田理紗さん
			③チームビルディング 講師：斗沢明子さん
			④プレゼンテーション 講師：小野寺浩樹さん
			⑤エンカウンター 講師：後藤真さん
			⑥NLP 講師：小野浩司さん
			⑦チラシデザイン 講師：澁谷和之さん
			⑧アセスメント 講師：小野仁志さん
			⑨出会いと振り返り 講師：小山田聖子さん

学び、気づき、出会いを楽しみました！

ワークショップという言葉も最近、目にする機会が多くなりましたが、なかなかその手法を学んだり、体験する場がなく、いきなりワークショップに参加することが日常的に起こっています。おそらくワークショップ自体になじみがない方は戸惑いも多く、ワークショップそのものに嫌悪感を抱くこともありま。いま、地域づくりの現場で多く用いられるワークショップについて触れる機会、さらには、実務的な手法を身につける機会として、みちのくワークショップフォーラムを開催しました。

ワークショップは、まちづくりの場面はもちろん、教育や環境、福祉や防災、そして自己啓発など、さまざまな分野で用いられています。今回は、ワールドカフェ・ローカルファシリテーター、チラシデザインはまちづくり、NLP・エンカウンターは自己啓発、チームビルディング・アセスメントは組織運営と、より現場や実務で役立つ8本のワークショップをメニュー化し、午前と午後に希望するワークショップを選んで参加し、学びと気づき、そして交流を楽しんでいただきました。

このフォーラムは、今年で3回目。みちのくと名付けているだけに、地元一関市のほか青森県や新潟県からも参加いただき、ワークショップの手法を学ぶことができる場がいかに貴重かを感じ、さらには、一関市において、このような場があることが根付きはじめたことに開催の手応えを感じています。

団体 紹介



白澤剛一 さん

～基本情報～

- ◆会長：白澤剛一さん
- ◆事務局：〒021-0881
一関市大町4-29 なのはなプラザ4階
TEL 0191-48-5888 FAX 0191-48-5889
Mail: iwainosato-guide@kjf.biglobe.ne.jp

800年前の原風景が残っている骨寺村荘園遺跡で、
時代を遡り、地域の魅力と出会う。

年に一度の街道交流会

とうほく街道会議第9回交流会
一関実行委員会主催の「とうほく街道会議 第9回交流会一関大会」は、11月1日から2日にかけて、本寺地区の健康の森と骨寺村荘園遺跡等を会場に行われました。

とうほく街道会議は、東北地方を街道で結び、東北の歴史や文化、風土に根差した活動をし、地域づくりに貢献することを目的に、平成17年に設立。毎年東北各地の街道について講演や分科会、探訪を企画し、会員や参加者の知識と交流を深めることで連携を強化しています。

今年で9回目になる同交流会は、いわいの里ガイドの会と協働により、一関市殿美町の骨寺村荘園をテーマに開催。1日目の基調講演では一関市博物館館長・東北大学名誉教授である人間田宣夫さんが「骨寺村馬坂新道の開削と奥大道」について解説を交えながら講演し、続く分科会ではパネルディスカッションと車座談会に分かれ、異なるテーマでそれぞれ話し合いを実施。2日目は、ガイドの案内で骨寺地区と芭蕉の道歩いてまわりました。

鎌倉時代から変わらない 骨寺村の原風景

殿美町の本寺地区は、鎌倉時代から室町時代（12世紀から15世紀）は、骨寺村と呼ばれる平泉中尊寺経蔵別当領でした。当時、平安浄土の国づくりを理想にかかげていた藤原清衡は、自ら発願した「紺紙金銀字交書一切経」（国宝）を完成させた功績として、自在房蓮光を中尊寺経蔵の初代別当に任命しました。

当時の中尊寺と骨寺村の繋がりを示す古文書は数多く保管されていますが、中でも「陸奥国骨寺村絵図」は、800年前の骨寺村の農村風景が鮮明に書き記されている上、その原風景が現在も変わらず在るという、世界でも非常に希少価値が高い地域です。平成17年には、その重要性が認められ、骨寺村内にある、山王窟、梅田遺跡、駒形根神社・白山社、伝ミタケ堂跡、遠西遺跡、要害館跡、若神子社、不動窟、慈恵塚・拝殿の9つが国の史跡に指定され、翌年には絵図に描かれた水田と屋敷を中心とする領域が国の重要な文化的景観に選定されました。現在も、地域の史跡・発掘調査が継続して行われています。

一関市では、骨寺村荘園遺跡の歴史と価値を伝え、交流を通じて地域活性化を図ろうと、今年4月に骨寺村荘園交流館「若神子亭」の展示棟を開館。9月初旬で、来場者数が1万人を超えました。他にも地域内の橋を新しく建て替える等して、骨寺村を訪れる方への環境整備を行っています。

今回の会議の実行委員長を務めた白澤さんは、骨寺村の今後と課題について、「圃場整備が進んでいますが、この景観を維持することが重要であり、できれば地元の方が骨寺村をガイドできるようにしてほしい」と語りました。

800年の時を超え、地域の歴史を今に伝え続ける骨寺村の風景と史跡は、かけがえのない地域の宝としてこれからも大切にされ続けてほしいと感じます。



探訪会で、慈恵塚参道途中から骨寺村荘園遺跡を眺める参加者の方々

一関市大東町摺沢 松原自治会

地域紹介



松原自治会長 藤城 修一さん

～基本情報～

- ◆会長：藤城 修一さん（平成23年度～）
- ◆大東町摺沢地区の松原自治会は、29世帯90人が暮らす山間部の集落です。毎月発行される松原自治会報「ふるさと松原」は、自治会内の情報発信として平成23年4月から発行しています。

松原の目指す三つの輪『和・輪・話』

地域のみんなは大きな家族

大東町摺沢地区の中心街から2キロほど南、国道456号線とJR大船渡線が並んで走り、小高い山々の間に民家が点在し山間に位置する松原自治会は、集落に暮らす人々が3つの「わ」を大切にしながら支えあい様々な活動に取り組んでいます。

昭和55年、32戸132人が暮らしていたこの集落は現在29戸90人と最近よく見聞きする「人口減少・少子高齢化」の現状も例外ではありません。しかし、松原自治会の皆さんはとても笑顔が素敵で、毎日を生きて生きと過ごし、まるで一つの家族のように感じました。

今回、松原自治会を取材したのは、まだセミの声が聞こえる8月初旬。日本大学生物資源科学部の学生が、同自治会内で農業・農村宿泊体験をするとのこと、お邪魔させていただいたのです。

同自治会では、平成21年から大学生を受け入れており、今年は16名が農村体験を通じ、集落の温かい人情に触れました。地域住民は、孫子が地元に戻ってきたかのように学生を受け入れ、地域の食材でもてなしをし、交流を深めています。取材日、学生の宿泊先となる自治会内の民家

には、地域の方々が集まり学生と一緒に食事の準備をしているところでした。「毎年みんなで、こうやって集まって、ワイワイと語りながら、年寄りも賑やかでしょ？」と採れたて野菜を洗いながら、素敵な笑顔で語ってくれたお母さん。「毎年、子どもたちが、帰ってきたかのようにだよ。」と、とても嬉しそうな表情が印象的でした。周りを見渡すと、老若男女問わず、笑顔の「わ」ができていました。

会報「ふるさと松原」の発行

素敵な笑顔の集まる松原自治会は、平成21年から2年間、自治会独自の「今日も元氣カレンダー」を作成しました。このカレンダーには、自治会行事のお知らせや行事を通じた住民の笑顔写真を掲載し共有していました。世界に一つしかない「今日も元氣カレンダー」は、平成23年から、自治会会報「ふるさと松原」に切り替わり、現在も月一回発行し、市の広報と一緒に地域住民へ配布されています。会報の内容や写真から、楽しかった行事の思い出や、これから開催される会議の内容など、充実した記事で住民の大切な情報網となっているとのこと。

絆深まる自治会館

「地域の絆が深まる場所」と語られる松原自治会館は、昭和45年に旧摺沢小学校の廃材を利用し、地域住民が協力し建設しました。平成21年には、会館設立40周年を記念に、市の地域おこし事業を活用して「地域団結強化夢追い機関紙発行事業」を実施し、松原自治会館40周年記念誌「ふるさと松原」を発行。この記念誌発行に至るまでには、同自治会副会長の菊池信一さんを編集委員長として15名の住民が自分たちの生まれ育った集落を様々な角度から取材しました。「故郷を知り、このように冊子に残せたことは貴重な財産になっている。できれば50年誌も編集したい。」と、菊池さんは当時を振り返り語っていました。

人口減少・少子高齢化と悩み多きこの時代。活動内容を工夫し更なる絆を深めるために何が大事かということを学べた心温まる自治会取材でした。



日大の学生に草刈り機械の取り扱いを教える
松原自治会の方々

株式会社 マーナーコスメチックス

企業紹介



くりこま高原 藤沢工場
品質管理部 課長兼副工場長
鈴木 隆司 さん

～基本情報～

- ◆代表取締役 井田 勝康 さん
- ◆本社：千葉県市川市原木 1-3-31
TEL：047-318-8610/FAX：047-318-8630
- ◆くりこま高原 藤沢工場：
一関市藤沢町黄海字町裏 441
TEL：0191-63-5350/FAX：0191-63-5353

地域の魅力を最大限に発信する企業

清らかな水は化粧品品の生命線

一関市藤沢町黄海地区。ここから地域資源を活かした化粧品を広く発信している企業があります。

自然豊かな山々の恵みを頂きながら流れる北上川の支流黄海川。化粧品品の生命線である清らかな水が豊富なことと、企業誘致に懸ける当時の藤沢町長の情熱的アプローチが決め手となり、平成8年、旧藤沢町に「くりこま高原藤沢工場」として根を置いた株式会社マーナーコスメチックス。昭和14年に「マーナー」ブランドによる総合化粧品メーカーとして発足し、昭和38年初代代表取締役として井田博久さんが就任。昭和46年、漢方生薬エキス配合化粧品を発表後、日本初の自然志向化粧品として多大な反響を呼びました。

同社くりこま高原藤沢工場の従業員は50名ほどで、そのほとんどが女性の地元正規雇用者。女性ならではの発想のもと、地元天然水を使用した丁寧な基礎化粧品の開発・製造を行っています。

「藤沢の天然水は、非常に化粧品製造に適する水質です。」と語る、同社藤沢工場の課長兼副工場長の鈴木さんから、化粧品製造企業ならではの

地域貢献に関わるお話を伺いました。

地域の方々と

連携した商品づくり

同社藤沢工場の商品の一つに、「採れたて新鮮なへちまで作った化粧水／へちまたっぷりお肌のクリーム」というキャッチフレーズで販売している「エレンスナチュラルローション／クリーム」があります。この商品は、無農薬栽培された採れたての「へちマ樹液」を使用しており、赤ちゃんからご年配の方まで幅広く安心して使える商品です。

この商品に使用しているへちマは、開発当初から約10年間、藤沢町内の老人クラブに無農薬栽培を委託していました。安全で安心なへちマを育ててもらい、それを企業が商品化することで信頼性のある地域ブランドとして、大人気となりました。2年程前からは、町内の農家と専属契約し、へちマ樹液の採取に合わせ、年に1度だけの限定製造で、地域の方々と連携した商品を一関市藤沢町から全国へと発信しているのです。

藤沢の

おいしい水、飲んでけらい

雄大な奥羽山脈、緑豊かな自然林、

清らかな空気のもと、高品質な水をふんだんに使用している同社の化粧品。この良質な水を、もっと多くの方々に知ってもらいたいと、天然飲料水の開発にも取り組みました。同社が販売している天然水は、軟水で口当たりが良く、美容や健康維持に必要なミネラルがバランスよく含まれているとのこと。「くりこま高原の天然水」という商品名で、一関市内の道の駅や、インターネットでの販売など、広く藤沢の天然水をアピールしています。

「今後も地域ブランドとして藤沢から海外へ向け発信していきたいと思っています。また、地域の方々へ『ひらかれた工場』として、いつでも工場見学が可能ですので、ぜひ、地域から生まれる商品を見学にいらして下さい。」と、鈴木さんは語り、「この工場に勤めてみたい」と思っていただけだと嬉しいのです。」と続けました。

地域の魅力を最大限に引き出す商品づくりを通して、企業が地域に根ざす姿が非常に伝わる取材でした。

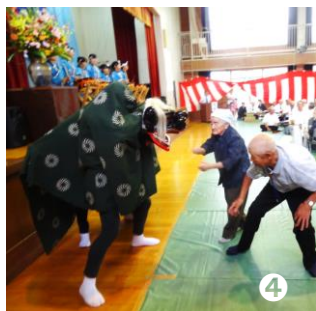


敷地内にはラベンダー花壇もあります

◆◆◆◆センタースタッフの体験レポートです◆◆◆◆

歩 が 行 く

◆一関市花泉町の永井地区郷土芸能伝承保存会の練習に潜入してきました◆



今回は...
子どもたちの真剣な眼差しに出会ってきました

①平成 25 年 9 月 15 日に開催された花泉町永井地区敬老会での演舞。日ごろの練習成果発表ですが、なによりも地域のおじいさん、おばあさんが地域伝統の鶏舞、獅子舞を楽しみにされているとのこと。児童は緊張しながらも、堂々とした舞を披露しました。

②永井地区郷土芸能伝承保存会の息の合った太鼓と手開鐘。同保存会会長の阿部さんの唄声も絶好調です。

③こちらは、獅子舞のお囃子です。同保存会の講座は、毎週水曜日午後 7 時から 8 時半まで永井公民館で鶏舞と獅子舞を交互に練習しています。

④なんでも、獅子に頭をかじられると御利益があると言われてます。

⑤こちらは、練習風景です。11 月 17 日に第 34 回永井地区文化祭の芸能発表に出演するため、児童が一生懸命練習しているところです。

⑥取材潜入日の練習には、体調不良のため参加できない児童もいましたが、1 回あたり約 10 分の鶏舞を児童は、指導者の太鼓に合わせ力いっぱい舞っていました。

地域の宝を後世へ「復活・継続・そして活性化」

一関市花泉町の永井地区郷土芸能伝承保存会は、平成 23 年 10 月 19 日に発足し、永井地区に存在する郷土芸能を地域の宝と考え、後継者の育成や伝承保存活動に取り組んでいます。また、その活動を通して、社会福祉と学校教育に貢献し、「地域の文化は地域で守ろう！」と毎週水曜日に伝承講座の開催や、「永井地区郷土芸能だより」を発行するなど、活動の内容やその様子を広く住民の皆さんにお知らせしています。

同保存会が開催している「郷土芸能伝承講座」には、永井小学校の児童の皆さんをはじめ地域の幅広い年代層が受講しており、鶏舞や獅子舞の基本をマスターし、地区の文化祭や敬老会での発表・老人施設への慰問をはじめ、市内の伝承芸能発表会や各種大会で見事な舞を披露しています。

同保存会会長で、指導者でもある阿部良さんは、現在 63 歳。地域の伝統神楽に魅了されたのは 22 歳の時。「当時は、地元有志で伝統神楽を継承してきたが、指導者の高齢化や後継者不足など深刻な問題に直面した。地域の文化的財産である鶏舞や獅子舞を絶やしたくないという思い一心での呼びかけと、永井公民館の支援を受けこの保存会を発足した。」と当時を振り返ります。現在は、児童も積極的に参加し、この日練習に来ていた児童 3 名も「中学校へ行っても絶対続ける！」と元氣よく話していました。

歴史がわかるともっと神楽が好きになる

実は私の父は藤沢町内にある神楽保存会の指導者として・・・地域によって同じ鶏舞でも、太鼓の調子や唄が違うのだなと実感。それぞれ地域に伝わるルーツや歴史があるのだなと感じました。

イ ベ ン ト

ボ ラ ン テ イ ア

情 報 コ ー ナ ー



花房晴美 & 花房真美 ピアノデュオコンサート

日本を代表するピアニストの花房晴美と妹の花房真美による2台ピアノ・連弾・独奏をひと時に楽しんでいただける贅沢で貴重なコンサートです。姉妹ならではの息の合った演奏で最大限に引き出すピアノの魅力をお楽しみいただけます

【日時】平成25年12月1日(日)
開場：午後1時半／開演：午後2時
【場所】一関文化センター
【料金】一般：1000円(当日1400円)
高校生以下：500円(当日700円)
【問合せ】一関文化センター0191-21-2121

認定 NPO 法人取得セミナー

一般財団法人地域創造基金みやぎ専務理事／チーフ・プログラムオフィサーの鈴木祐司氏を講師に迎え、認定 NPO 法人取得を身近に感じ、さらにハードルの低い仮認定制度の概念も理解できるようにセミナーを開催します。

【日時】平成25年12月3日(火)
午後1時半から午後4時半まで
【場所】なのはなプラザ
【料金】参加費無料
【問合せ】NPO法人いわて復興連携センター
【電話】0197-72-6200(担当 伊東・三田)

天を観る-木星と月と冬の星-

冬は明るい星を見るチャンス。芦東山先生も観察した月と木星を望遠鏡を使って、みんなで探そう!!どんな星が見つけれられるかな?参加は無料ですが申込みが必要です。定員先着30名で親子で参加してね!!

【日時】平成25年12月7日(土)
午後6時半～午後8時
【場所】芦東山記念館
【料金】参加無料(定員先着親子30名)
【問合せ】芦東山記念館
【電話】0191-75-3861(担当 小味)

わくわく自然塾-ミニ門松をつくらう-

自分だけのオリジナル門松でお正月を迎えよう!!門松づくりの後にはみんなで餅つきにチャレンジ!!温かいお雑煮で、体の芯から温まりましょう♪※小学校3年生以下のお友達は保護者同伴。募集定員は20名です。12月1日までにお申し込みください。

【日時】平成25年12月15日(日)
午前9時から正午まで
【場所】川崎防災センター
【料金】500円(保険・材料費等)
【問合せ】NPO法人北上川サポート協会
【電話】0191-36-5666

はくぶつかんこどもくらぶ

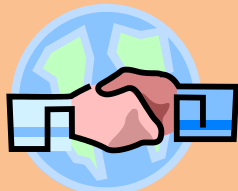
一関市博物館では「はくぶつかんこどもくらぶ」と題し、展示テーマにちなんだ体験学習を開催しています。12月は和紙染め体験。親子で和紙を色とりどりに染めてみましょう!当日は、汚れてもOKな服装で参加してね。

【日時】平成25年12月21日(土)
午前10時から正午/午後1時から午後3時の間随時
【場所】一関博物館
【料金】50円(材料費)(所要時間は約1時間)
【問合せ】一関市博物館
【電話】0191-29-3180

その場しのぎの男たち

劇団東京ヴォードヴィルショー第69回講演創立40周年記念興行第四弾。このお芝居は、あの「三谷幸喜氏」がこの劇団のためだけに書いたオリジナル作品!佐藤B作の他、素晴らしいキャストのお芝居をどうぞお楽しみください。

【日時】平成25年12月23日(祝・月)
開場：午後1時半／開演：午後2時
【場所】一関文化センター
【料金】全席指定S席3500円/A席2500円
高校生以下2000円(当日各500円増)
【問合せ】一関文化センター0191-21-2121



一関市管内で活動している地域団体のボランティア募集です。

詳細等はお問い合わせ先にご確認ください。



一関市青少年少女発明クラブ

一関市青少年少女発明クラブでは、青少年少女に対する“ものづくり”の指導をしてくれる有償ボランティアを募集しています。

【日時】毎月2回程度(土日)
1回/2時間程度
【場所】発明クラブ教室、一関公民館、真柴コミュニティセンター
【報酬】2時間で1,000円ほど
【問合せ】一関市青少年少女発明クラブ事務局 千葉 邦夫
【電話】0191-26-4928

お弁当屋さんのボランティア

NPO法人ワークハウス雲では、同法人が運営する「雲の弁当屋」の簡単な調理やお弁当の配達を手伝ってくれるボランティアを募集しています。下記までお気軽にお問い合わせください。

【日時】毎週火曜日・金曜日
午前10時～午後1時
【場所】雲の弁当屋とその周辺
【報酬】交通費(要相談)
【問合せ】NPO法人ワークハウス雲 担当 渡邊 知子
【電話】090-7073-4985

いちのせき 市民活動センター

センターの連絡先はこちら



住所：一関市大町 4-29
なのはなプラザ4F
電話：0191-26-6400
FAX：0191-26-6415
営業時間：朝9時～夜6時
休館日：日・祝
スタッフ：6名

ホームページ：<http://www.center-i.org/>

せんまやサテライト

サテライトの連絡先はこちら



住所：千厩町千厩字町 149
電話：0191-48-3735
FAX：0191-48-3736
営業時間：朝9時～夜6時
休館日：日・祝
スタッフ：3名



メール：center-i@tempo.ocn.ne.jp

FMあすも

小野寺センター長出演の「人そだて地域そだて」のコーナー
(毎週水曜日、11時半～)の一部を紹介します。

◆10月20日放送「伝えるプレゼンの仕方」

16日のみちのくワークショップフォーラムでは、“プレゼンテーション”のワークを担当しました。プレゼンを行う前には、話す準備をするプランニングを行います。起承結の順で組み立て、特に緊張しがちな方は「これだけはちゃんとやろう」という目標をつくること。また、言葉で話すだけではなく写真や動画を組み合わせれば、視覚的に訴えることもできますね。視線の場所や話し方にもコツがあります。



12月のまちのお知らせ

1	大東町芸術祭郷土芸能発表会 (大東) おもちゃ図書館 (東山)	16	
2		17	てんとう虫教室アート交流 (川崎)
3		18	
4	生涯スポーツ教室バウンドテニス (一関)	19	寄せ植え講習会 (川崎)
5		20	障がい者ふれあい事業初心者パソコン教室 (一関) 絆街道の灯りモニュメント点灯 (室根) (~3/15)
6	障がい者ふれあい事業初心者パソコン教室 (一関)	21	
7	パチパチお話の会 (千厩) 第12回保健医療の丘むろね大会 (室根)	22	家庭教育学級「育児講演会」(藤沢)
8	魅力ある女性事業 (藤沢) ホワイトクリスマスフェスティバル (大東) 川崎町バレーボール大会 (川崎)	23	
9		24	
10	てんとう虫教室アート交流 (川崎)	25	
11	生涯スポーツ教室バウンドテニス (一関)	26	
12		27	
13	障がい者ふれあい事業初心者パソコン教室 (一関)	28	
14	地区アンサンブルコンテスト (千厩)	29	
15	わくわく自然塾～ミニ門松をつくろう～ (川崎)	30	
		31	

お知らせ

◆NPOのための会計・税務講座を開催します！

団体運営の中で、お金の係るお悩みはありませんか？
日々の会計業務を改めて見直し、ミスや不正を防ぐ仕組み作りについて学びましょう！

日時：25年12月7日(土)午後1時半～3時半

会場：なのはなプラザ4階 会議室

講師：東北大学会計大学院教授 成田由加里さん
(公認会計士・税理士)

定員：20名(先着順)受講料無料

持物：筆記用具 申込：いちのせき市民活動センター

今月の表紙



一関市大東町大原の山谷サキ子さんの作品展「古布とリサイクルで楽しむ季節の小物展」が11月2日の文化祭から8日まで大原公民館で開催されました。1針1針丹精込めて作られた力作が訪れた方々の目を引きつけました。

編集後記

11月11日、今年初の雪が降りました。春夏秋冬・・・季節が過ぎるのは本当に早いものですね。これからますます寒くなっていきます。みなさま、風邪などひかぬよう暖かくしてお過ごしくださいね！！



あなたの「知りたい」に、担当スタッフが答えます。

Q1 情報誌 idea のイベントコーナーに掲載して欲しいんだけど・・・

A1 どの団体様の情報も掲載することができます。毎月15日までに、当センターまで掲載して欲しい内容をお知らせください。